一色保木山
カタクリの里保存会

カタクリについて

皆さんはカタクリの花を見たことがありますか。
カタクリは単子葉類 ユリ科の多年生植物で、広葉樹林の林床で早春に紫斑のある葉を広げ、赤紫の花びらを下向きに広げながら咲かせます。

近年は広葉樹林の遷移進行や園芸採取、シカの食害による影響も大きく、日本全国的に減少傾向にあり、日本の多くの都道府県でレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）の指定を受けており、なかなかお目にかかれない花となってしまいました。

岐阜県のカタクリ

このような状況の中、岐阜県では、関市武芸川町一色地区、高山市清見町大原地区、可児市土田地区にカタクリの群生地があり、絶滅危惧植物、準絶滅危惧植物としての指定は受けていません。これは、それぞれの土地で地域の方々による保護活動のおかげによるものなのです。

カタクリに係るうんちく話

片栗粉は本来カタクリの地下茎のデンプンから作られたのでその名がついたのですが、現在ではカタクリは希少な植物となってしまったため、ジャガイモから大量生産されたものが市場に流通しているんですよ。

取材に協力してくださった方々のご紹介

表紙写真の右から

藤井 辰夫さん（代表）	72歳
櫻井 寛和さん（副代表）	74歳
藤井 知巳さん	70歳
藤井 勝良さん	81歳
藤井 克浩さん	57歳
松下 典生さん	52歳
藤井 豊司さん	72歳
松下 英司さん	67歳
藤井 敏幸さん	69歳

令和5年11月11日に、『一色保木山かたくりの里保存会』のボランティア活動を取材させていただきました。

「カタクリの植生」と「里山の保全」の係わりについて教えてください。

カタクリは落葉広葉樹林の下の木漏れ日が差す山の北斜面の水はけのよい林床に生育します。ここ一色地区はシイ、カシ、ブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹が多い保木山の北側に位置していて、カタクリの生育条件に適しているんですよ。

またカタクリは種から増える多年生植物で、1 年目の春は松葉のような細い葉を伸ばし、光合成をして鱗茎（地下茎の一種。園芸では球根という）に養分を貯めると、2週間ほどで地上部は枯れてしまいます。
そして 2 年目以降は、丸い葉を 1 枚出して光合成をし、養分を貯えた後は同じように地上部は枯れます。
こうして毎年少しずつ大きな葉をつけ、8 年ほど経つと、2 枚の葉の間からようやく花芽が出てきて、可愛らしい花を咲かせるようになります。
けれど、カタクリの種や芽に落ち葉が積もったままだったり、笹が茂り放題だったりして日陰になってしまうと、光合成ができなくて死んでしまいます。

昔の日本では、堆肥にするために里山林の落ち葉かきしたり、薪炭材にするために定期的に樹木を伐採したりと、利用目的に応じて人が手を加えていたことが、図らずもカタクリをはじめとする豊かな生態系を維持していました。
つまりカタクリを保護するには、里山を維持して守っていく保全活動が必要不可欠なのです。

関市武芸川町一色地区のカタクリ群生地の特徴は？

岐阜県内には関市の一色地区以外に、可児市の鳩吹山や高山市の清見にもカタクリの群生地があります。
可児市の鳩吹山や高山市の清見では、それぞれの市の観光課がお金を出して管理をしていますが、ここ一色地区は今も昔も地元の者が自主管理しています。
また3つの環境保護団体の中で唯一、人の手による「種まき」や「分球」という方法を取らず、自然な状態（こぼれ種）でカタクリを増やしています。

『一色保木山かたくりの里保存会』は、どのように始まったのですか？
また、現在の構成メンバーは？
30年前に、一色地区にお住いの高齢者が、保木山のすそ野を散策中に数株のカタクリを見つけたことがきっかけです。
活動当初は一色地区老人会が中心になって、「とても希少な花だから地域の者達で守らなければ。」と、土地の所有者８名から土地に入る許可をとり、カタクリの保護をはじめました。

現在の一色地区は56世帯ありますが、活動に興味のない方やご高齢な方もいらっしゃるため、今では老人会ではなく、有志の者達で活動を行っています。
会員の高齢化が進み、退会される方やお亡くなりになる方もあり、今は名簿上で 25名の登録があります。
その中で元気に作業に出られるのは 10 数名、さらに言うと若い 50 代は数名で、あとはシニアしかいません。
そうそう、今日は参加していませんが女性の会員も5名いますよ。

『一色保木山かたくりの里保存会』では、主にどのような活動をしていますか。
私達は関市武芸川町宇多院一色地区にある保木山で、年４回の清掃活動と、散策路の整備、植樹をして、里山の自然を守っている環境ボランティア団体です。
またカタクリの花が咲く春の時期には、訪れる観光客を相手に、保木山の動植物や昆虫、そして我々の活動についてお話をしています。
近年は関市の環境フェアでブース出展したり、地元の小学校に出向いて講話を行ったりすることで、環境保全・保護の啓蒙活動にも力を入れています。

清掃活動ではどのようなことをするのでしょうか。
春と夏の清掃活動日には、雑草や笹などの下草刈り、スギやヒノキの枝打ち、そしてゴミ拾いをしています。
秋と冬の清掃活動日にはそれ以外に、落ち葉かきをして、春に出てくるカタクリの芽に光が当たるように手助けしてあげます。
冬になるとギフチョウの幼虫やさなぎが落ち葉の下にいるので、下草刈りをする際に草刈り機の利用ができず、手作業で行わねばならないため、とても大変な作業になります。

散策路の整備活動について教えてください。

今の散策路は３年前に関市の「地域の魅力づくり施設整備補助金」という補助金を活用して整備したものです。

整備前の散策路は我々が切り開いた細い道で、木の根が張っていて足場が悪かったのですが、補助金のおかげで、業者に重機で木の根を取り除いてもらって砂利を敷き、道幅も少し広げることができて歩きやすくなりました。

散策路の整備活動では、敷き詰めた砂利をならしたり、散策路上に倒木があればどかしたり、また散策路脇の杭やロープの点検をして不具合をみつけた時は新しい物に取り換えたりしています。

（散策路の点検途中に路面が崩壊した場所を見つけ、）これはひどい。

この場所はもともと小さな沢があったところで、散策路にするため、砂利の下に塩ビ管を通して水を下流に流れるようにしていたのですが…今年の夏の猛烈な雨の影響で崩れたんでしょうね。

〔※令和５年８月16日、武芸川町では1時間に107ミリもの降水量があった〕

それに、杭もいくつかぐらついているものがありますね。高齢の方は杭に寄りかかったりするた

め、このままにしておくと危ない。次回の活動で、これらを直さないといけませんね。
杭の打ち直しやロープの張り直しは私達でもできますが、ここまで路面が崩れているとなると重機でないと直せそうもないので、資金的にどうしたらよいか、春が来る前に至急対策を練らなければ。

整備された路面

↑ シルバーカーを押して歩くことが可能

崩壊した路面

倒木処理作業

〔↑倒木〕

← 大雨の影響で、散策路上に沢から流され転がってきた大きい礫

植樹活動について詳しく教えてください。

この里山では 10 年位前から広葉樹が古くなり枯れて倒木が相次いでいるため、7，8年前から秋の活動日には落葉広葉樹の苗木を植樹しています。
以前は苗木も自費購入していたのですが、3 年前から関市より苗木の現物支給の支援をしていただけるようになりました。
今年はシイとコナラの苗木を合計 15 本支給していただけたので、今日、清掃活動後に植える予定です。

落葉広葉樹の苗木

植樹作業

『一色保木山かたくりの里保存会』の活動資金はどのように賄っているのですか。
また有償、無償どちらのタイプのボランティアなのでしょうか。

無償ボランティアなので、掃除用具や草刈り機、杭やロープなど活動に必要な物品の購入には、基本的に自分たちの持ち出しで賄っています。
関市からは３年前に散策路整備費をいただきましたが、継続的な補助金はありません。
以前は春になると関西からバスツアーが訪れた際、バス会社よりお客様の人数×200 円の心づけをいただいており、それが大事な収入源だったのですが、コロナ禍以降はツアーがなくなってしまいました。
そこで、近年はそれに代わるものとして協力金箱を設置し、協力金をいただいた方には、お礼にノベルティーをお渡しすることにしています。
昨年度までのノベルティーは手作りの缶バッチでしたが、今年度からはカタクリの里のファンになってくださった写真家さんが提供してくださった写真で作成した絵葉書に変更しました。
これがなかなかの好評で、協力金が前年度の３倍にもなりました。
大変ありがたいです。

ノベルティーの缶バッチ

ノベルティーの絵葉書

活動を長く続けてきた中で、どのような時にやりがいを感じるのかについて教えてください。

里山の保全、環境整備をすると自然というのはそれに応えてくれるんです。
当初は数株しかなかったカタクリが横に上に広がり増えていって、今では1ha（サッカーコートの 1.4倍の広さ）もの群生地になりましたし、同じような植生であるカンアオイやショウジョウバカマも増えました。
一昨年は10万株に１株と言われている白いカタクリが５株も咲いたのですが、今年は１つも見ませんでした。自然って不思議ですよね。

来てくださった皆さんに見ていただきたいのは、植物だけではありません。
ここはギフチョウの生息地でもあるんですよ。
カンアオイはギフチョウの幼虫の食草なのは、よく知られている話ですよね。
そして成虫であるギフチョウはカタクリや保木山の山頂に咲くミツバツツジの蜜を吸うんです。

「岐阜県内には他にもカタクリの群生地があるが、ギフチョウと共生しているのはここだけで大変興味深い。」と名和昆虫博物館の方や岐阜大学の学生も見に来てくださいます。
また保木山だけでなく、林縁の用水路や駐車場から続く田んぼのあぜ道の環境整備も同時に行ってきたこともあり、用水路にはゲンジボタルの数も増えました。
ちょうどカタクリの花が咲く時期にギフチョウが多く舞う姿や、初夏にゲンジボタルが光るのを見ると、活動をしてきてよかったなぁと思います。

地域の自然を守るためにはじめた取り組みですが、春のシーズンになると遠方からわざわざ観光客が訪れて楽しんでくださったり、毎年テレビ局や新聞社からの取材があったりすることも、とても励みになります。
過疎に向かっている村の一つの活性化の取組みとして、魅力ある地域づくりに貢献できていることを嬉しく、また誇らしく思います。

活動をしていて、何か大変なことや困りごとはありますか。
私達が一番恐れているのは赤さび病です。
赤さび病は糸状菌（カビ）による病気で、発症するとカタクリの葉の裏にさびた鉄のような病斑が現れて、最終的には枯れてしまいます。
以前、岐阜県立国際園芸アカデミーに対策を聞きに行きましたが、「殺菌剤を散布しても効果はあまり期待できず、まめにとって焼却するしか方法がない。」とのことで、ローラー作戦で１枚１枚葉の裏を確認して取り除いて焼却しました。
ギフチョウの絶滅は防ぐことはできますが、赤さび病が蔓延してしまうと最悪のケースだと新潟県妙高市赤倉のカタクリのように絶滅してしまうため、とても怖いです。

次に困っているのは動物による被害です。
長年植樹をしてきましたが、シカによる枝葉の食害のせいで一本も育っていません。
また今のところ、シカがカタクリを食べるという直接的な被害はありませんが、郡上ではシカにカタクリを食べられたと聞いています。
今年は昨年よりどんぐりが少なく、シカにより被害が大きくなるかもしれないことに危機感を覚え、寺尾の森林組合に相談したところ、防獣ネットを10個分けていただけることになりました。
〔※寺尾地区には“寺尾ヶ原千本桜”という有名な桜の名所がある〕
防獣ネットは3本の支柱周りにネットを張るという構造で、長い時間を経て朽ちて自然に還る性質をもっているそうです。環境に優しくていいですよね。
今後、この方法で植樹が上手くいくとよいのですが、実は“シカ”だけではなく、“イノシシ”も問題でして…。
イノシシは新芽を食べるわけではないのですが、植樹する為に掘り起こした土の中に大好物の

ミミズがいた場合、そのニオイをかぎつけて辺り一帯を掘り起こす習性があるため、防獣ネットごと苗木をなぎ倒してしまう恐れがあります。
以前は武儀川の北側だけに生息していたイノシシやシカ、タヌキが、最近ではこの辺りでも出るようになりましたし、サルも群れではありませんが“はぐれザル”を見かけることもあります。
一色地区では害獣駆除をしていないので、今後が気がかりです。

他には、ギフチョウを捕まえたり、ギフチョウの卵を取ろうとしたり、花や蝶の写真を撮ろうとして、ロープを跨いで踏み荒らすマナーが悪い方がいることや、カタクリの株を掘り起こして持ち帰るという心無い方がいることも問題です。
花が咲く時期には会員達で見回りをしたり、看板を立てたりして注意喚起を行っていますが、会員がいない時間帯を狙ってくることもあり、とても困っています。

〔↑　武芸川事務所の支援で作成した看板（左上）と、会員達による手作り看板　〕

『一色保木山かたくりの里保存会』で、最近新たに取り組んでいることはありますか。

この春（令和 5 年の春）はカタクリやショウジョウバカマの花が見られる2か月間だけですが、ご高齢の観光客の方々にもゆっくり花を見せてあげたいと思い、関市観光協会の協力を受け、一番良いアングルで見られる位置にベンチを設置しました。
とても好評だったので、来年はベンチの数を増やしたいねと会員の皆で話しています。

また岐阜大学地域政策学科 富樫教授とそのゼミ生に「地域を活性化させるために、我々の活動をどう広げていったらよいか。」についてヒアリングをした時に、「観光客が訪れる時期に飲み物や食べ物が購入できるお店があると良いのではないか。」というご意見をいただき、早速この春（令和 5 年の春）、駐車場向かいの公民館前でマルシェ（市場）を開きました。
一色地区の女性部の方達も協力してくれて、味ごぼうやおはぎ等の地域の特産品を売る店やハンドメイドの小物を売る店を出店しました。
マルシェの売り上げは自治会のものとなり、保存会の収入源にはならないのですが、地域の方々や観光客の方々との交流が楽しかったので、今後も続けていくつもりです。
来春（令和 6 年）は 3 月16日（土曜）にマルシェを開催予定で、その際は武芸川味工房さんの出店もありますので、この取材記事を読んでくださった方達にも遊びに来ていただけると嬉しいですね。

『一色保木山かたくりの里保存会』では、今後の目標はありますか。

会員が高齢化してきたこともあり、この魅力ある里山をどう次世代につなげていくかというのが課題です。
毎年、すぐ近くの関市立武芸小学校からは「カタクリの見学」と、「環境保護についての講話」の依頼があります。また今年は、関市立博愛小学校の 3 年生からも「地域の自慢についての

講話」の依頼をいただきました。
まだ決まったことではありませんが、地域の子供達にも活動に参加してもらうといった「もう一歩踏み込んで学んでもらえるような何か」を準備できたらと考えています。
他には…散策路の中程に会員達の手で建てた東屋があるのですが、それが老朽化したので撤去し、もう少し大きめの新しい小屋を建てたいです。
その新しい小屋には休憩コーナーだけではなく、環境フェアに出展したパネルの展示コーナーを設けて、訪れてくださった方々にも『一色保木山カタクリの里保存会』の活動内容や保木山に生きる動植物について知っていただきたいと考えています。

〔↑　現在の東屋。掃除用具と一色保木山カタクリの里のパンフレットが置いてある 〕

ところで、「一緒に活動をしたい」と考える方がいた場合、この土地の住人や出身でなくても入会することはできますか。
もちろんです。
一色地区の方でなくても、何歳の方でも、この“一色保木山カタクリの里”を気に入って、活動に賛同してくださる方であれば、仲間になっていただけると嬉しいです。

最後に、何か新しいことをはじめることに躊躇し、一歩を踏み出せないでいるシニアの方に向けてメッセージをいただけますか。
最近では地域の方々が集う機会が希薄になっていると聞きますが、「地域活動」に参加してみてはいかがでしょうか。
私達は地域の自然の保護活動をしているわけですが、活動を通して同世代がつながったり、皆の意見や気持ちを出し合えたりする「宝のような居場所」になっています。
同じ目標に向かって地域の皆が集まって取り組む中で、会話が生まれ、メンタルもフィジカルも含めて維持していく良い機会になりますよ。

関市武芸川町一色
保木山カタクリの里

一色保木山かたくりの里
カタクリとギフチョウのユートピア（理想郷）

令和6年
3.16㊏ 開園

かたくりの里に味工房オープン
3月16日（土）～4月7日（日）の土・日・祝限定出店

営業時間 AM10:00～PM3:00 ※雨天時休業

場　所 一色公民館前テントコーナー

味工房の出店です！

武芸川の「味工房」が春爛漫のふるさとの味覚をラインナップ

おはぎ・お味噌・椎茸・五目御飯・
黒豆・大豆・ホットコーヒー他

淡紫カーペットが広がるステージでギフチョウと
カタクリが奏でるシンフォニー
新緑と木漏れ日の春を満喫！
（園内には映えフォトスポットベンチも用意）

主催　一色保木山カタクリ保存会 関市観光協会補助金活用

お問い合わせ　武芸川まちづくり委員会　☎ 0575-46-3611